

## 平成28年度第3回石狩市行政改革懇話会

日 時：平成28年11月30日（水）13：30～

場 所：石狩市役所2階 201会議室

出席者：次のとおり

委 員			職 員	
役職	氏 名	出欠	所 属	氏 名
会長	角川 幸治	○	(事務局) 総務部行政管理課長	森本 栄樹
副会長	飯尾亜紀仁	○	(事務局) 総務部職員担当主査	宇野 博徳
委員	能村久美子	○	(事務局) 総務部職員担当主査	青木祐一郎
委員	松谷 初代	○		
委員	向井 邦弘	○		
委員	柴田由美子	○		
委員	橋本フミエ	×		
委員	上木 智子	○		

傍聴人：1名

### 【事務局から開会宣言】

＜次第日程1＞

角川幸治会長あいさつ

#### 【発言要旨】

●第1回では委員の顔合わせと議論にあたり市長の講話がありました。

石狩市が抱える課題とともに、発展の芽が伸びつつあるという内容だったが大変印象的でした。

●第2回目では会長として要望していた現地視察を行った。石狩市内で様々な動きを間近で見聞きすることができ大変有意義でした。

●今回第3回目はこれまでの懇話会を踏まえ、次期行革大綱の中身の検討を行う。

検討の仕方についても懇話会として希望していたKJ法を用いて議論するので活発な議論をお願いしたい。それでは次第2の本日の議題について事務局から進め方や資料等の説明をお願いします。

＜次第日程2＞

【事務局:宇野】

- 今回ご議論いただくテーマは、第1回懇話会でも配付したものでお手元にあります  
次期大綱の主要な柱となる3つの項目となり、完成のイメージとなります。
- 2班に分かれて議論いただき、それぞれ議論の結果は模造用紙にまとめてください。
- KJ法の進め方の留意点などはお手元に配付の資料でご確認ください。
- 最後にとりまとめた結果を発表いただきます。

【A班】角川幸治、向井邦弘、柴田由美子、上木智子 以上委員

青木祐一郎(事務局)

【B班】飯尾亜紀仁、能村久美子、松谷初代 以上委員

宇野博徳(事務局)

#### 【検討結果】

☆A班

成果図は別紙のとおり(ホームページには画像をリンクさせます)

#### 《議論の要点》

- 直面している時代認識(課題・問題)

項目	説明・コメント
道の駅の開設	他地域にはない特徴が必要
	オール石狩で取り組むべき
	石狩市民の興味・関心を高めることが重要
高齢化問題	町内会役員の高齢化
	生きがいづくり
	高齢ドライバーの交通事故への対策
子どもの貧困	
少子社会への対策	育児休業など子育て制度は十分なのか
障がい者の社会参加	公共施設等をバリアフリー化することが閉じこもりを防ぐ
マイナンバー制度	メリットや活用方法の情報が不足している
	国の動向を注視する
ICTへの対応	行政は民間に比べ取り組みが遅れているのでは
	選挙投票事務への導入が有効ではないか
	情報教育が必要
女性の働き方	女性が働きやすい体制、支援は十分なのか
	働く場が少ない(女性と若者の)
	非正規が多い現状

限界集落対策	特に厚田・浜益の集落のあり方を考えるべきではないか
コミュニケーションのあり方	市役所の横連携は不十分ではないか
	職員間の情報共有の仕組みを ICT の活用も含めて考えるべきではないか
事務処理適正化	事務ミス防止のための検証が必要(PDCA サイクル)
社会インフラの老朽化	下水道設備の段階的な更新が必要

●中核的な対応(施策)

項目	説明・コメント
市民協働の推進	各団体へ参加を呼びかける
地域資源の活用	エネルギーは近隣自治体とも協力できないか 観光資源のさらなる発掘を
健全な財政運営	無駄な事業はないかの見直しが必要 ハード整備の抑制は財政に寄与したのか
ICT の推進	効果につながるものへの導入
事務事業に関すること	各種事務手続き、窓口業務の簡略化
人材育成の充実・強化	民間企業の社員教育ノウハウを活用 市民目線で仕事のできる職員の育成 高度化、専門化に対応する職員の質向上

●目指す姿

項目	説明・コメント
徹底した現場主義	現実、現場、現物に向き合う
市民、企業、団体、世代間との調整力	市民目線の行政を実現
よい仕事を生み出す	繰り返す、アンテナを張る やらないことを決める(責任範囲の線引き) 広い視野で、視線を外に向けて

【その他の意見】

- 障がい者など、弱者に優しいまち
- 高齢化してきた産業へのサポート(補助等、情報・仕組み)
- 起業家への支援

- 市内企業間の連携
- 民間ノウハウを研究する部署
- 移住促進対策の進め方
- 空き家対策

☆B班

成果図は別紙のとおり(ホームページには画像をリンクさせます)

### 《議論の要点》

#### ●直面している時代認識(課題・問題)

項目	説明・コメント
少子、高齢化、(生産)人口の減少	限界集落の維持の課題
	町内会活動への影響
	地域の人とのつながりが希薄になっている
石狩の特色づくり	石狩の特色とは何か
子どもの教育と取巻く環境	学力低下の問題
	放課後の在家庭子どもへの対策が不足
	石狩の教育の特色が見えにくい
	子どもの貧困、家庭間格差の顕在
文化の継承問題	担い手の減少(高齢化)
	今あるものをブラッシュアップすることも必要
情報社会の対応	情報格差が生じている(インターネット、ITを使えない、分からぬ)
	全てが発信者でなくとも、発信者を応援することで情報発信力が高まる
心のケア	心の病を持つ市民が多くなっていると感じる
公共交通の問題	車のない石狩の生活に不安を感じる
公共施設のあり方	施設の老朽化とともに、今ある施設の有効活用 ※多世代、異なる目的での利用を可能とする。
行政組織のあり方	他市に住む職員が石狩市・市民を応援する
	横連携が不十分では
道の駅の活用	いかに特色を出していくか

●中核的な対応(施策)

項目	説明・コメント
コミュニティーの充実	地域で続いている行事の伝承
	町内会への参加促進の工夫(参加したら得だなと思える仕掛けづくり)
	地域自治における権限の付与
多世代が集えるサロンづくり	
文化分野の連携	団体どうしの協力(活動PR)
	公民館機能の強化(指導者派遣等のサポート)
情報発信(ICTの活用)の推進	情報収集や発信のための学べる機会の拡大
公共施設の有効活用	広域圏で共有する
	必要なものは新しく作り、共有できる施設はより有効に使う
公共交通の充実	将来を見据えたしっかりした設計が必要
	多様な主体が相互に補完して隙間を埋める制度整備や支援
行政組織の再編	石狩市の特徴を現す組織に再編する
石狩の魅力発信	過疎地には特色的な資源があり、これが石狩市の魅力であると言える
	子育しやすいまちを分かりやすく発信する
	自然資源を活用、アピールする
特色ある教育の充実	地域人材を広く活用する
	食育を含めた健康教育の充実
	石狩の魅力学習を充実させる

●目指す姿

項目	説明・コメント
理想は 住んでいる全てのひとが『石 狩市が大好き』と言えるまち	
そう言えるまちにするためには	
市民、企業等と市役所が力を 合わせることが必要	

市役所が協力のパートナーとなるために	
現場力につける	現場にこそ現実がある
調整力につける	様々な意見に耳を傾け最適解を導く
組織づくり	施策効果を最大にできる組織づくり

【事務局:宇野】

- 長時間にわたるご議論大変お疲れ様でした。この結果については、次期行革大綱に反映していきます。
- 今後の予定として、年内に大綱の素案を庁内において調整し、年明け1月下旬を目途に素案をパブリックコメントにかけ意見募集を行います。その前段、1月中旬に懇話会の開催をお願いしたいと思います。

【会長】

- 長時間の議論大変お疲れ様でした。全体をとおして確認、質問があればお願いします。
- ないようですので、本日はこれで散会します。

(閉会)

平成28年12月20日 議事録確定

石狩市行政改革懇話会 会長 角川幸治